



20中建水第686号

平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

中川村長 曾我逸郎



今後の道路行政についての意見・提案について（提出）

平成20年9月19日付国道企第37号にて依頼の標記については、別紙の通り提出します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案

長野県中川村

今、地方の市町村は、道路整備、福祉、住民の足の確保、少子高齢化対策、農業の後継者不足、産業振興、医療体制の維持など多くの課題を抱えています。特に当村のような過疎地域は、深刻の度も高く、厳しい財政状況の中、何とかやりくりをしながら対応努力している現状です。

このような中、道路特定財源の一般財源化となった場合、当村では歳入が大幅に減少し、村での暮らしは破綻しかねません。地方財政を逼迫させないためにも、無駄な支出の根絶を図り、真に必要な道路は、十分な予算措置のもとに他の公共サービスとの優先順位を検討の上、確実に推進していただきたい。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ②

②－１ 地域の現状と抱える課題

長野県中川村

○現状

中川村の道路網は、大動脈である国道 153 号を中心に主要地方道伊那生田飯田線・松川インター大鹿線、及び一般県道北林飯島線、大草坂戸線・西伊那線の合計 6 路線の国県道の幹線道路と 1 級路線を含む 464 路線の村道からなっています。

また、中央自動車道へのアクセスは、松川 IC まで 15 分、駒ヶ根 IC まで 20 分の位置にあります。

○課題

国道 153 号は、歩道未整備箇所や交差点危険箇所の改良・整備が課題となっています。

県道の伊那生田飯田線や北林飯島線において未整備箇所があり早期全線改良が臨まれます。特に国道 153 号線災害時等の迂回路として重要な路線である伊那生田飯田線については早急な改良が必要である。

村道においては、住民の生活基盤となる村内バス路線や通勤通学道路など重要な路線について計画的に進める必要があるが、厳しい財政状況かで、計画通り整備が進んでいないのが現状です。

②－２ 地域の目指すべき将来像

長野県中川村

○中川村の将来像

先人達の残してくれた自然や暮らしの知恵、伝統を受け継ぎ、そして伝えていくため新たな世紀の先駆けとなる村づくりの基本理念として、“結い”と呼ばれる「支え合い」精神、すなわち「共助・共生」の歴史を一層重視しながら地域づくりを進めます。

快適で健やかな暮らしを楽しめるむらづくり

中川での生活が健やかでより楽しく、かつ中川ならではの魅力にあふれたものとなるよう、住民１人ひとりの個性に応じた生活を一生懸命サポートする村づくりを目指します。

豊かな自然と風格のある景観を満喫できるむらづくり

中川の豊かな自然と景観を最大限に活かし、住民をはじめ、村を訪れる多くの人々が「ふるさと」への憧憬をいただくことができ、安らぎと誇りを享受することのできる村づくりを目指します。

新たなふれあいと躍動を創出するむらづくり

「人」・「まち（地域社会）」・「自然」が、日常生活やレジャー、仕事など暮らしのそれぞれの場面で、新しい時代にふさわしい結びつき（ふれあい）躍動を創出しながら、それぞれがともに生きるパートナーとして歩んでいくことができる村づくりを目指します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等

長野県中川村

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活性化の向上	三遠南信自動車道の新設 国道 153 号伊南バイパスの早期完成	流域圏の一体化が図られると伴に、県境を越えた地域間の交流が図られる 住民の通勤圏の拡大が図られると伴に地域間の交流拡大（人・物）が期待され、地域の活性化が図られる。	
・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	主要地方道伊那生田飯田線改良 国道 153 号歩道設置	災害等緊急時の迂回路の確保と安全な交通網の確保が図られる。 児童・生徒の通学時の交通安全が図られると伴に住民の安全確保	
・少子・高齢化に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成	村道ふれあい公園線の新設	「天の中川河川公園」とのアクセス道として新設することにより、子どもや高齢者が安心して公園を利用することができる	